



東芝テック(株)静岡事業所(大仁) サイトレポート情報	
所在地	静岡県伊豆の国市大仁570
敷地面積	66,170m ² 、建家面積：42,018m ² 、緑化率25.4%
設立	1950年2月、従業員：1,286人(2011年3月現在)
主要製品	POSシステム、電子レジスター、バーコードプリンター等
ISO14001認証取得	1997年6月、最新更新年月：2009年6月 (ISO認証番号：EC08J0022)



ごあいさつ

2010年4月より、三島、三福、大仁の3拠点を統合し、東芝テック(株)静岡事業所として再編されました。その中で、当サイトは、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と緑豊かな自然環境に恵まれた立地条件の中で事業を行っています。
事業所では、POSシステム、電子レジスターなどの流通情報システム機器の開発・製造・サービスを行っており、これらによる環境に対する影響を低減するため環境保全活動を推進しています。



環境保全責任者 高井真仁

2010年度の環境の主な取組み

- ☆ISO14001環境マネジメントシステム
1997年6月に認証取得、2010年6月に定期審査実施。
- ☆省エネルギー
電力量目標 600万kWh ⇒ 実績 606万kWh
- ☆廃棄物の削減
廃棄物総排出量目標 525t ⇒ 実績 527t
最終処分率は0.06%
- ☆環境調和型製品の開発
新商品のファクターT目標2.20 ⇒ 実績 3.16 達成
新商品において環境自主基準適合
- ☆全員参加・啓発活動の展開
環境月間・3R推進月間・省エネ月間による環境啓発活動、環境ニュース配布
- ☆地域との協調
ペットボトルキャップ寄付、プルタブ寄付、社会貢献基金寄付、清掃、ボランティア活動の参加

製品・環境技術開発、環境配慮ポイントの紹介

※数値は従来商品との比較

 <p>【省エネ】 ・基板構成高集積化により待機電力を約20%削減。</p> <p>【省資源】 ・本体質量を約16%削減。</p> <p>【化学物質管理】 ・鉛フリーはんだ、クロムフリー鋼板の採用。</p> <p>電子レジスター MA-500</p>	 <p>【省資源】 ・設置面積を約44%削減し、業界最小を実現。 ・本体質量を約40%削減。 ・梱包質量を約50%削減。</p> <p>【化学物質管理】 ・鉛フリーはんだ、クロムフリー鋼板の採用。 ・プリント回路基板にハロゲンフリー材を採用。</p> <p>マルチカード端末 IP-4500</p>	 <p>【省エネ】 ・表示部にLEDバックライト採用により消費電力を削減。</p> <p>【省資源】 ・筐体の一部に再生プラスチックを採用。</p> <p>【化学物質管理】 ・LEDバックライト採用により水銀を全廃。 ・プリント回路基板にハロゲンフリー材を採用。</p> <p>縦型スキャナ IS-890T</p>
--	---	--

環境コミュニケーションの紹介

- ・静岡事業所(大仁)環境報告書の発行：2004年度より毎年発行
- ・地域との交流(参加)：小さな親切運動(1回：9月、他3回は途中で中止)
(主催)：納涼祭開催(8月)
- ・地域との協調：ペットボトルキャップ寄付(約15万個：376kg)でNPO法人より感謝状
(このキャップで188人分の世界の子どもへのポリワケンを寄付)
伊豆の国市田京幼稚園に社会貢献基金寄付(加湿器、図書寄贈)
- ・自治体等主催行事参加：ライトダウンキャンペーン参加(広告灯の消灯、6月、8月)



東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁) 環境基本方針

当事業所は、自然豊かな伊豆半島に位置し、富士・箱根・天城の山々を仰ぎ、狩野川の清流と文化を育む、魅力(ゆめ)ある伊豆の国市の住民と共存しています。
わたしたちはこの環境の中、東芝テックグループ行動基準に基づき、環境に配慮したモノ創りを通してお客様及び自社の環境負荷を低減することで持続可能な地球社会の発展に貢献します。
かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、事業活動と環境活動の融合を図り、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指し、「私たちの約束」である経営理念と企業の社会的責任に基づいて環境経営を実践します。
環境経営の柱として、「環境経営マネジメント」、「エコプロダクツの開発」、「エコプロセスの推進」、「環境コミュニケーションの推進」を掲げ、環境対応に積極的に取り組み、環境負荷低減に貢献します。

1. 「環境経営マネジメント」

- 1) 事業活動、製品、サービスに関わる環境側面について、生物多様性を含む環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染防止に関する環境目的・目標を設定・推進し、継続的な改善・向上を図り、定期的な見直しを行う。
- 2) 環境に関連する法律・条例及び組織として受入れを決めた要求事項、自主基準を順守する。

2. 「エコプロダクツの開発」

- 1) 優れた環境調和型商品の開発・提供を通じて社会に貢献するために、省エネルギーと3R、省資源、特定化学物質全廃を推進することで新商品全ての環境自主基準適合を図る。
- 2) RoHS規制を順守し、環境に配慮した材料・部品の選定・仕入れを行い、東芝グループのグリーン調達ガイドラインに基づき推進・実行する。

3. 「エコプロセスの推進」

- 1) 地域性に配慮し、省資源、省エネルギー、化学物質の適正管理に取り組み、環境配慮生産をおこなう。
- 2) 地球資源の有限性を認識し、排出物の発生抑制、再生使用、再利用に取り組み循環型社会構築に貢献する。

4. 「環境コミュニケーションの推進」

- 1) 東芝テックグループの環境保全活動を推進するため、関係会社・協力会社に対し指導・支援をおこなう。
- 2) 社員一人ひとりが環境活動を推進できるように、環境教育・啓蒙活動を展開し、環境マインドを高める。
- 3) 環境基本方針、環境活動について広く社内外へ公開する。
- 4) 行政、地域、関係団体などと協調し、社会全体の環境活動に参画、協力する。

2011年 5月 1日

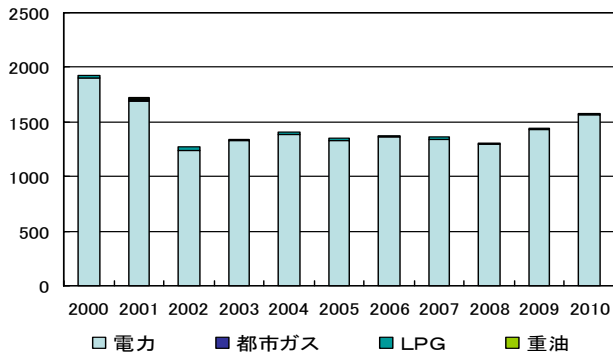
東芝テック株式会社 静岡事業所(大仁)

執行役員
事業所長 原 康 三

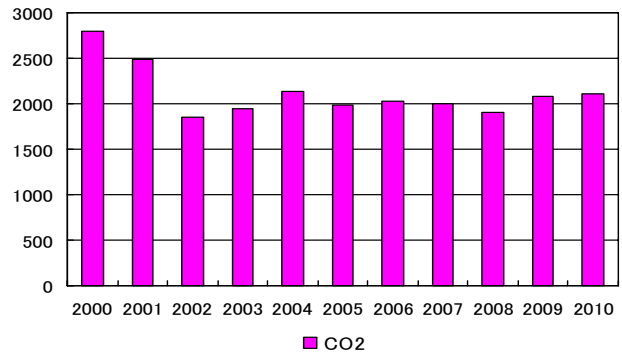


環境負荷データ

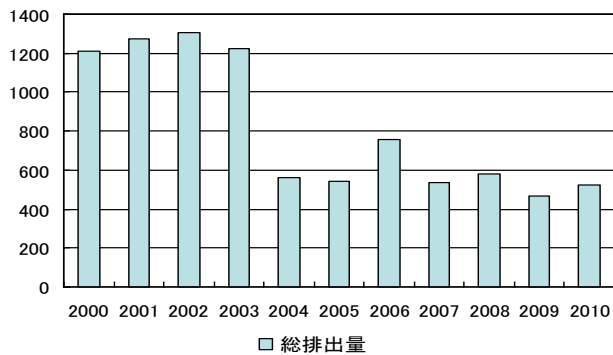
エネルギー使用量(単位:KL)



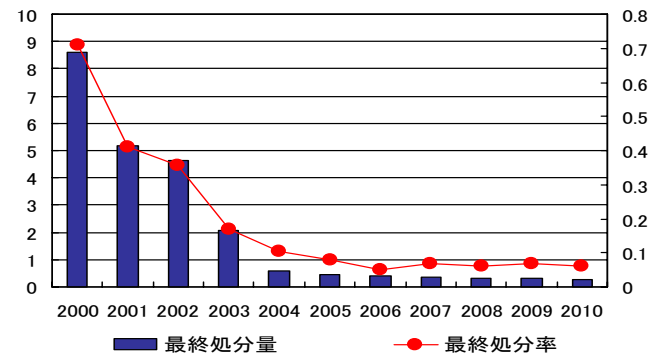
CO₂排出量(単位:トン-CO₂)



廃棄物総発生量(単位:トン)

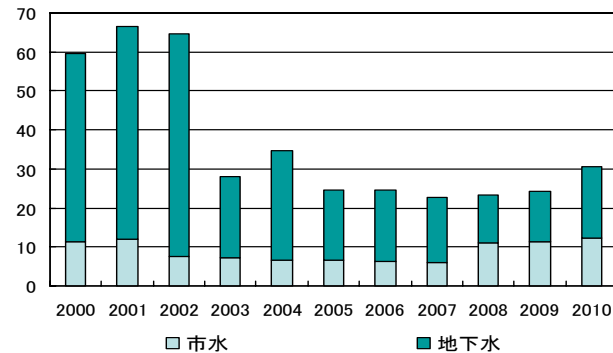


廃棄物最終処分量と最終処分率(単位:トン、%)

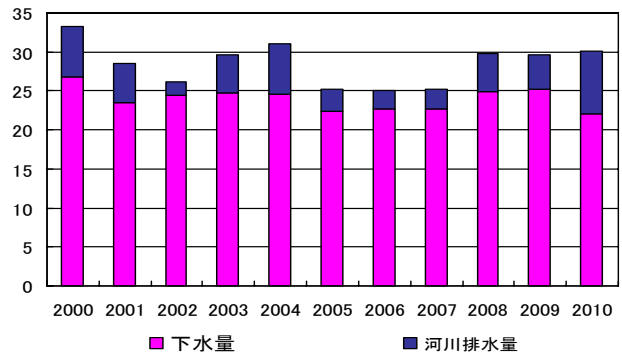


主な廃物名:酸、汚泥、金属、ガラス、プラスチック、油等

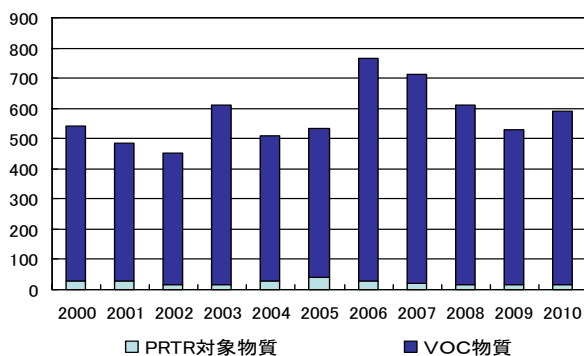
水の使用量(単位:千m³)



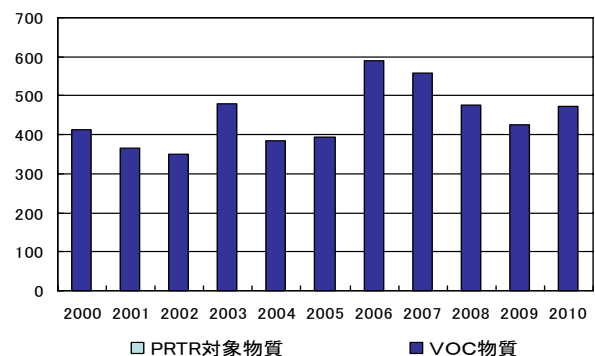
排水量(単位:千m³)



化学物質削減対象物質の取扱量(キロ)



化学物質削減対象物質の排出量(キロ)



主な化学物質:エタノール、IPA、アンチモン化合物

遵法管理状況

＜大気測定結果＞ 特定施設無し

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx(ppm)	対象外	対象外	対象外	対象外
SOx(Nm3/h)	対象外	対象外	対象外	対象外
ばいじん(mg/Nm3)	対象外	対象外	対象外	対象外

＜排水測定結果＞ 特定施設無し(自主測定)、河川(狩野川)へ放流

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6(水濁法)	5.9～8.5	7.4	年2回
BOD(mg/ℓ)	最大160(平均120)	25	0.7	月1回
COD(mg/ℓ)	最大160(平均120)	120	0.7	年1回
SS(mg/ℓ)	最大200(平均150)	40	2.0	月1回
窒素(mg/ℓ)	最大120(平均60)	60	0.7	2年1回
フッ素(mg/ℓ)	8(水濁法)	8	<0.2	2年1回

＜騒音・振動測定結果＞ 特定施設 騒音:空気圧縮機施設(コンプレッサー)、振動:空気圧縮機施設(コンプレッサー)

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音(dB)	敷地境界:昼	65	65	49.5	年2回
	敷地境界:夜	55	55	43.5	年2回
振動(dB)	敷地境界:昼	70	70	33.1	年1回
	敷地境界:夜	65	65	22.1	年1回

＜その他測定結果＞ (下水道法:主な測定結果)特定施設無し(自主測定)

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0～9.0	5.2～8.8	8.1	年4回
BOD(mg/ℓ)	600	550	43.4	年4回
SS(mg/ℓ)	600	550	49.8	年4回

＜環境事故・指導指摘・苦情の有無＞

	状況
環境事故発生の有無	なし
工場周辺や地域での環境問題発生の有無	なし
行政からの指導・指摘の有無	なし
近隣住民からの苦情の有無	なし

環境目標

2011年度のサイトの主な環境目標

推進項目	指標	2011年度目標
地球温暖化の防止	電力量	600万kWh以下
資源の有効活用	総発生量 最終処分率	525トン以下 0.1%以下
化学物質管理	エタノール使用排出量	500kg以下

環境目的

2012年度のサイトの主な環境目的

推進項目	指標	2012年度目標
地球温暖化の防止	電力量	594万kWh以下
資源の有効活用	総発生量 最終処分率	525トン以下 0.1%以下
化学物質管理	エタノール使用排出量	500kg以下